



全 国 曹 洞 宗 青 年 会

SOUSEI

2022.05
Vol.197



特集

禪と自然

B u d d h a N a t u r e

禪と自然

B u d d h a N a t u r e

古来より修行僧は自然の中で自己を見つめることを重視し、大自然の中に建立される寺院も多くありました。正法眼蔵『身心学道』巻に「山河大地日月星辰これ心なり」と記されているように、自然とは寺院や僧侶にとって共存すべき大切な存在にほかなりません。

こうした思想は一般社会においても共通するものでしたが、近代化とともに自然に対し共存ではなく凌駕することが重要となり、現在は人間主体の生活が社会の基本となっています。しかし近年は「SDGs（持続可能な開発目標）」に「陸の豊かさを守ろう」とあるように、自然と社会が共存することが再注目されています。また過疎問題においても、地方における人口減少や伽藍維持の難しさが懸念されています。自然と共存した寺院運営の形を見出すことも、僧侶にとって重要な課題の1つとなっています。

今回の特集はこうした状況に鑑み、禪と自然の共存について改めて考えました。人間と自然の関係性や曹洞禅元来の精神とともに、寺院の自然資産を活用するヒントをお届けいたします。

こし やま さとし 越山 哲老氏

静岡県在住
UPI ナイフ&ブッシュクラフトインストラクター
モーナナイフ公認ナイフインストラクター

長年培ってきたアウトドア全般の知識・経験・技術を活かし老若男女を対象にワークショップを行っている。ネイティブアメリカンの思想を重視し、自然の美しさや恐ろしさ、自然との共存を伝えているブッシュクラフトの第一人者。



い だ しょう げん 井田 昭彦 師

石見曹洞宗青年会 会員
島根県 岩瀧寺 副住職
島根県立少年自然の家職員

お寺で開催するイベントで、滝登り体験や日帰りキャンプなどの自然を活用した布教活動を展開し、「禅」と「自然」の素晴らしさを伝えている。



自然の中にある「教え」

ブッシュクラフトインストラクターとしての越山さんから見た自然とは、どのような存在ですか？

越山氏／私が子どもの頃、家の周囲は自然がいっぱいで近くの山には野犬がいたり、現代の感覚では決して安全な環境とは言えませんでした。しかし危険と隣り合う環境であったとしても私はそこが大好きで、そこで遊び過ごす中で多くのことを自然から学びました。

そんな「自然」を指す「Nature」という単語には、本性（内）と自然（外）という意味があるそうです。つまり人間の内側にも本性という自然があり、外側には環境という自然があるということです。人間は自然の一部であり自然は人間の一部であると考え、自然というものは人間と遠いモノ、まったく別のモノではなく、もっと身近に感じるこ

とができます。

また日本にも自然の中で生きる素晴らしい知識は多くありますが、私は海外の知識にインスピレーションを受けました。特に若い頃何度か訪問したアメリカの旅で、ネイティブピープル（アメリカの先住民）の知識や技術に触れ、特にその思想には強く影響を受けているかもしれません。

それはどのような考え方でしょうか。

その1つは「ワンネス」という思想です。ワンネスとは「全てはつながっていて、すべては1つである」という意味で「大きな円環の思想」とも言えるでしょうか。

例えばメディスンホイールという円形の中を十字で仕切られたシンボルがあります。円は終わりがなければ始まりもない循環を表し、十字の仕切りは4つの季節や4つの方角などを表しています。ネイティブピープルの思想では、人はホイール上

で成長の旅を続けていくのだそうです。

私はその循環という言葉を意識するようになりました。勘違いしやすいですが日々循環する生活は同じことの繰り返しではなく、繰り返しごと螺旋状に向上成長していくんです。この思想によって、日常の捉え方が変わりました。

禅の思想にも円相という円形の書があります。どこかメディスンホイールと似ていますね。

私も禅の思想や陰と陽などの東洋哲学にとっても似ていると感じます。中でも特に禅の思想はバックパッキングという哲学ムーブメントを生み、大きな影響を与えています。これはバックパックに生活用品の全てを詰め込み、本当に人間に必要な価値観というものを探す旅に出るというもので、50年代のアメリカを大きく変えた思想の1つです。



メディスンホイール



円相

「SDGs（持続可能な開発目標）」に「陸の豊かさを守る」という目標があります。この目標を達成するために、越山さんどのような行動が必要だと思えますか。

先ほど話した Nature という言葉ですが、私にとって先生とも言える Nature（自然）が少なくなっ





てきているということは、人々の心の中の Nature（本性）が少なくなっている表れとも感じています。私がアメリカとは別に仕事で毎年訪れるスウェーデンは、日本と同じく国土の70%が森林地帯だと言われています。しかし彼の国で感じたことは、我々日本人の心の中の森林面積がいかに少ないかということでした。北欧には自然享受権という権利があり、他人の土地であろうと野営できます。日本はそれと比べ野営できる場所はほとんどが国有地であり、現実的に野営できる場所は限られています。つまり法律や制度的にも、人々の心と自然の距離が大きく離れていると言えるでしょう。これも日本人の今の Nature（本性）が、Nature（自然）に投影された結果なのかもしれません。

人間には理性と知性があり、それらは文化や文明を築き上げました。私は、全てがそうということではないですが、時に一部の文明が自然を破壊することがあると考えています。例えば河川においては、人間が暮らしやすいように文明の力で無理やり流れを変えることがあります。しかし流れを変えたがために大雨で川が氾濫してしまい、災害になってしまったということもあります。これは自然も文明もどちらも互解する出来事であり、最も良くない結果と言えるでしょう。

文明の発展により人間の「過ごしやすい暮らし」が出来るようになった一方で、このように自然と人間の距離が離れてきた影響が表れています。そして自然と共存する中で培った人間の知恵である文化も、近代化によって文明と同じように自然と乖離してきていると感じます。しかし、人間の Nature（本性）が Nature（自然）と共に作り上げてきた本来の文化というのは、自然を破壊することは少ないのではないのでしょうか。

自然災害は確かに恐ろしいですが、自然は人間に対し攻撃しようとしていません。自然にもバランスがあり、雨が降り増水するんです。だから私達人間も自然を凌駕する姿勢は見直すべきでしょう。そして、ただ手を付けないことが良いわけでもありません。本来の自然の姿に沿って、理性と知性を使ってバランスを考える。自然と共存していた文化にもう一度目を向けることこそ、豊かな自然を守ることに考えています。

取材／広報委員 伊村千尋
広報委員 泉田尚志

事例紹介【ブッシュクラフト竹箸】

「お寺」にある自然を活かして

今回は、皆様のお寺においても手に入りそうな自然の材料を使ったクラフト事例として、少ない道具で製作できる竹箸の作り方をご紹介します。ご自坊で、檀信徒やお子さん達とチャレンジしてみてもいかがでしょうか。

- ① 道具：ノコギリとナイフ 材料：なるべく真っ直ぐな竹
- ② 作りたい箸の長さを決めます。その長さから更に、拳1つ分長くノコギリで切ります。長くしたところがナイフで削る際の持ち手となります。
- ③ 切った竹を安定する場所に立てて置きます。そこに上からナイフを当てて余っている竹の棒でナイフを軽くたたいて割ります。割った竹に節がある場合は節を取ります。
- ④ 次に1cm程度の太さに二等分します。この2本の竹が箸になります。
- ⑤ ここからはしっかり理想の箸をイメージして少しずつナイフで削ります。箸は太すぎると使いにくいので、途中で箸を使うときのように持ってみて太さを確認しましょう。
- ⑥ 理想の形にできたら箸にナイフを立てた状態で軽く当てて、削るように滑らせて面取りをします。
- ⑦ 最後に②で作った持ち手の部分をノコギリで切って箸の完成です。

この他にも箸置きやコップ、お皿なども竹で簡単に作ることができます。自分で作った箸を使って食事することは、いつもと違った気持ちで食べることができるはずです。ぜひ食卓で使ってみてください。



「教え」の中にある自然

石州瓦と呼ばれる赤茶色の瓦屋根が山々の新緑に美しく映える島根県江津市波積地区。ここにダム建設によって移転を余儀なくされた曹洞宗寺院・岩瀧寺があります。このお寺の副住職である井田昭彦師は、お寺周辺の自然資産を活用し、一般の方向けの自然体験活動を行っています。

『岩瀧寺の滝』について教えてください。

井田師／旧岩瀧寺のすぐそばにある、全長121m、幅18mの4段に連なる滝です。この滝は岩瀧寺の象徴です。弘法大師がこの地を訪れたときに、お堂を建立したのが岩瀧寺の始まりともいわれています。



ます。この滝は波積ダムの満水時には半分近く沈んでしまうので、今後はこの景観が変わってしまうのかもしれない。

古い歴史のある旧境内地がダムに沈んでしまうのは、本当に寂しい思いでいっぱいでしたが、下流域の安心安全な生活のために必要不可欠のことと、移転することとなりました。寂しさは今もありますが、檀信徒さんにとっては交通の便もよくなり、お参りもしやすくなったと思います。

また当山にはピザ窯があるので、そのピザ窯に使っている素材は、旧岩瀧寺本堂で使用されていた石州瓦や土壁を再利用しています。ダム建設のために昔の本堂は無くなってしまいましたが、このように形を変えて現在に引き継がれています。イベント開催時にはこの場所は憩いの場となっています。

自然にふれあう活動を展開されておりますが、活動が生まれたきっかけはありますか。



滝を見ていただければ分かる通り、当山はとても自然豊かな環境にあります。私自身も大好きな自然を資産として活かす方法はないかと、以前から考えていました。また私は近隣の少年自然の家の職員も兼業しています。その影響もあり、やはり自然と触れ合うことを活かす事業へと思い至りました。そんな時、前期の全国曹洞宗青年会で開催された「明日をひらく寺院創生講座」に参加し、「寺業計画書」を提出させていただきました。そこで改めて自坊の自然を活かした活動の魅力や強みを再発見できました。

現在は、私が少年自然の家の職員であることで生まれるご縁や経験を組み合わせることで、より



魅力的な運営ができるようになってきました。以前は、兼業であることが中途半端だと思い、負い目を感じていましたが、今では寺院運営のための大きな武器だと思っています。

実際に自然に体当たりで向き合う井田師にとって自然と禅の関係とはどのようなものでしょうか。

道元禅師は「溪声は仏の説法、山色は仏の清浄身である」と説かれています。私は安居中、畑作業を経験しました。直に手で土に触れ、野菜の成長を感じることで、自分が野菜たちの命をいただいている生かされていることを肌で感じました。これは実際に畑作業を体験しないと感じられない感覚であったと思います。また、広大な自然の中に身を置いているとき、自分のちっぽけさを感じるとともに

に、禅の教えで大切にしている「いまここに自分の存在をあるがまま受け入れる」ことを感じることが出来ます。だからこそ、当山で自然体験をした子どもたちは、大きな自信をつけて自分にも他人にも優しくなれるのだと思います。社会変化が速く多様性に富んだ現代を生きていく上で、寺院で自然と向き合う時間を過ごすというのは、大切な学びになると思っています。

私にとって自然とは向き合う対象ではなく、その中に身を委ねることが出来る存在です。私自身が兼業のため、普段からやるべき業務が多種多様で、一つのことに集中するのが難しい現状です。自然の中では、その圧倒的な魅力に包まれて素直な自分になることができ、まさに「いまここでおきていること」を存分に味わうことができます。坐禅の心境に通じるところですね。

昨今のアウトドアブームは、人間が本能的に禅的な癒やしを求めているからかもしれません。お寺の暮らしでも日々の業務に追われることは少なくないと思います。たまには、自然界に身を委ねてみるのもいいですよ。

取材／広報委員 信行一宏

広報委員が火おこし！

メタルマッチでの火付け体験レポート

岩瀧寺様に到着すると、「ここにある物だけ使って火を起こしてみて」とメタルマッチを渡されました。筆者は火おこし初体験で知識は全くありません。とりあえず、乾いていそうな枯れ草を集めてメタルマッチを擦ってみました。火花は出るものの全く着火しません。配置が悪いのかと、配置をずらしてみましたが、焦げ目が付くだけで着火の気配はありません。試行錯誤すること約30分。見るにみかねた井田師から、「もう少し、軽めの素材を増やして、段階的に燃料を大きくした方がいいよ」とアドバイスを



受け、なんとか火を付けることができました。この火で沸かしたお湯で淹れたコーヒーは格別でした。井田師曰く、「子どもへの自然体験の時も離れて見守りながら、いろいろ試させます。この感動は知識だけでは得ることが出来ませんから」

事例紹介【タキッズ修行キャンプ】

「お寺」にある自然を活かして

岩瀧寺では滝という近隣の環境を活かした「タキッズ修行キャンプ」や「岩瀧寺の滝ウォーキングまつり」といった一般向けのイベントを実施しています。

普段見慣れたご自坊周辺の環境も、他所から見れば非日常を味わえる魅力的な環境になるのかもしれませんが。それを活かす取り組みを考えてみてはいかがでしょうか？

【タキッズ修行キャンプ】

1泊2日の小学生対象のプログラムです。全体を「滝登り班」と「炊き出し班」の2班に分けて、自然を身体いっぱいに体感し、仲間や食事への有り難さに気づくことを目的に実施しています。

① 滝登り班

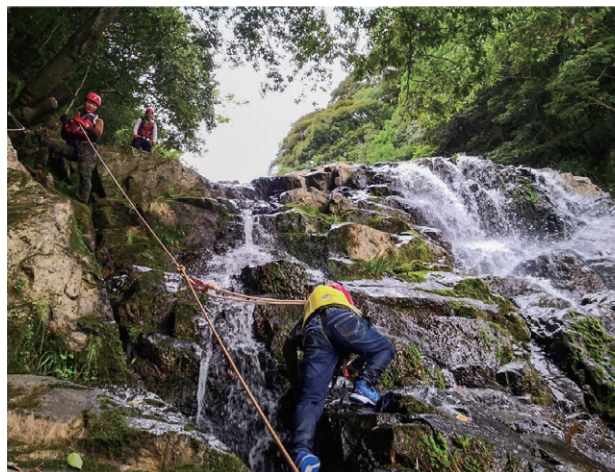
安全対策をしっかり行い「岩瀧寺の滝」を登ります。圧倒的に広大な自然の前では、自分のワガママは通用しません。自分一人の力では滝を登りきることが不可能なため、自然に仲間と協力する姿が生まれます。

「滝を登る」という魅力的な挑戦だからこそ、活動に一所懸命になり、仲間を思いやり、大きな自信をつけることができるのです。

② 炊き出し班

滝登り班が滝登りをしている間に、全員分の食事を準備します。食材托鉢として、近隣の住民の方から食事の材料を分けていただきます。体験する子どもたちにとっては、知らないお宅を訪問するという体験も、近年希薄になりつつある心の繋がりに触れる貴重な機会となります。食後の片づけは、「滝登り班」が行います。食事を用意してくれた「炊き出し班」への感謝の気持ちから、みんな率先して片づけをしてくれます。

2日目は班の役割を初日と交代して活動します。



滝登り体験



タキッズ修行キャンプ



食材托鉢の様子

水槽の金魚と地球の人間



「自然 (Nature)」という言葉を調べると、①あるがままのさま ②本性 ③山川（特に人が自分たちの生活の便宜からの改造の手を加えていない物）と出てきます。また、仏性のことを英語で「Buddha-Nature」と訳す場合もあるそうです。このことから、仏性とは特別な行動によって作り出す何かではなく、あるがままに、自然に備わるものであることが意識させられます。今特集では、この自然と共にある僧侶の在り方について、立場の違うお二人から大きなヒントをいただけたように思います。

お話を伺う中でお二人は、自分自身が自然の一部であることを強く意識しておられました。アメリカのネイティブピープルの意識と、曹洞宗僧侶としての安居経験に根ざした意識。全く文化圏の違う国で生まれた思想の共通点から、仏性や禅とは国や人種を超えて、人間という生物の本質に根ざすものであることを感じました。

本特集では、担当者自身も自然の中に行き、自然を隣に感じながら取材を進めることを重視しました。SNSに執着しがちな昨今、「いいね！」の数や1つの喜び（承認欲求）になりつつあるのではないでしょうか。しかしいったん自然の中に入り目の前の事象に取り組むと、自己を忘れいつの間にか没頭し、SNSどころか写真を撮ることさえ忘れていました。まさに坐禅に打ち込む感覚に近く、自然と禅の深い親和性を感じる取材となりました。

さらに今回の取材を通し、自然との様々な共存スタイルを学ぶことができました。越山氏に実演いただいたクラフトは、山野に自生する木を材料とします。寺院で馴染み深い竹を素材とした著作りは、多くの寺院で小規模な自然体験を企画するヒントとなりました。また、境内の自然環境全体を活用する井田師の取り組みから、昨今のアウトドアブームと高い親和性を感じました。

立場が変われば物事に対するイメージも変わるように、人間には経験や学んだことによる先入観というものがあります。培われたイメージによっては、木や草などに対して「掃除が大変だ」という印象を第一に持つ方もいらっしゃるかもしれません。しかし人によってはその木や草が資産となり、仏性に触れる機会となる活動を生む可能性を感じました。

最後に、自然に手を入れることは人間が安全に暮らすために必要なことです。例えば、金魚は丸い水槽に綺麗な水がなければ生きられないように、人間も丸い地球に自然がなければ生きられません。我々も同じ生物として、その自然を守り生きていくことができます。社会変化によって自然との関係性は日々変化しておりますが、これからも現代人であると同時に一人の僧侶として、豊かな自然と共に在りたいと思います。

文／広報委員 伊村千尋



全国の加盟曹青年会の活動情報を共有し、青年会活動のさらなる活性化を目指す本連載。今号は、山口県曹洞宗青年会の活動をご紹介します。

青年会情報

山口県曹洞宗青年会

昭和51年改称 会員数38人

中央・会長／清木玄栄

右・事務局長／土田裕明

左・全曹青事務局長／宮本昌孝



■これまで、どのような活動に取り組まれてきましたか。

山口県曹洞宗青年会では、年に一度の「緑蔭禅のつどい」での対外活動や青年会で修行した授戒会における「戒弟のつどい」の継続、また会員の研修やボランティア活動等、様々な活動を行なっています。しかし、この数年は新型コロナウイルスの影響によって、諸活動のほとんどをストップした状態が続いています。こうした状況ですが、全曹青写真用紙をお送りする代替企画など、現在の社会状況を考慮した活動を継続しています。

当会は青年会としての組織の歴史が長く、元々は「仏教青年会」として活動していました。「山口県曹洞宗青年会」という名前に改称した昭和51年より以

前から、長年に亘り様々な活動を展開しています。この歴史を絶やさず次世代に伝えるために、大変な状況ではありますが活発な活動を心掛けています。

■青年会主体での授戒会等、大規模な活動を多く展開されています。特に力を入れて取り組んでいる活動は何でしょうか。

もちろんすべての活動を大切にしていますが、当会には特にボランティア活動を大切にしてきた歴史があります。青年会としてはもちろん、宗教者がボランティア活動に参加することがまだ珍しかった阪神淡路大震災の頃にも、発災初期から現地支援活動に活発に参加したそうです。

こうした土台もあり、国内の災害における支援ももちろんですが、ミャンマーやカンボジアへの難民支援活動も行ってきました。当時は数ヶ月に亘り青年会員が現地に滞在し、日本から持参した材料を使い、現地で組み立てた輪転機で消失した書籍の復元を行うなど、様々な支援活動にあたっていたそうです。そして現在は、平成初期に始まった「タイ山岳少数民族教育支援活

動」を継続しています。教育環境が整っていないことで迫害を受ける山岳民族の方が教育を受けることができるように、学生寮を作って就学環境を整える支援です。学生寮を設立した平成8年当初は、実際に青年会員が入寮面接等も行なっていました。現在は「シャンティ山口」や現地財団と連携して、学生寮の維持に協力しています。

私達が支援する学生寮では、現在まで300人以上の学生さんが卒業し、



「緑蔭禅のつどい」の様子



タイ現地視察

現地で職を得た方も多くおられます。現在も2年に1回学生さんの卒業時期に現地視察に伺っています。支援活動にも様々な形がありますが、やはりその場でその環境や現実を見て、学生の皆さんにお会いすると、支援の本質はその方達の自立をサポートすることだと強く実感します。なんとかしなければならぬ。何か自分達にできることをしたい。そんな強い思いを持って支援活動を継続しています。

■これからの課題や目標はありますか。

新型コロナウイルスを理由に、事業を停止することは簡単です。しかし、逃げずに向き合っていくことも大切だと考えています。そのためやはり、新型コロナウイルスを意識した活動というのが今の一番の課題です。冒頭にも申しましたが、当会では様々な活動を継続しています。しかしその活動の多くは、対面で参集することを前提とした事業です。そのため代替企画の立案等、社会状況に対応した新たな展開を日々模索していきたくと考えています。また模索という点で考えると、この数年間で好転したこともあります。それは会内のオンライン事業への理解が進んできたことです。新型コロナウイルスの感染拡大に対応する状況も長く続き、オンライン会議等への参加も日常のこととなりました。昨年の中国管区大会は、岡山県主催でオンライン開催されました。管区大会がオンライン開催となるのは初めてのことでしたが、会場からも多くの会員が参加することができました。この浸透度であれば会内のオンライン研修等も積極的に計画す

ることが可能です。

また、このようにオンライン化の進む状況ではありますが、対面事業の必要性も意識しています。例えば「タイ山岳少数民族教育支援活動」については、2年に1回の現地視察等もできない状況が続いています。つまりこれは、新しい会員との「活動への想い」の共有が難しい状況にあります。いかに次世代にこの想いをつないでいくかというのは、正に今の課題です。当会は広報誌も発行していますので、新会員の方には入会挨拶を執筆してもらったり、また今年は管区大会の会場が山口ですので、新会員の方には大事業の運営に積極的に参加してもらっています。先ずは会員として何かをするという経験を経て、徐々に青年会活動が自分事となるような組織運営を模索しています。今年、中国管区大会では、東日本大震災十三回忌予修法要や、青年僧侶の現地支援の拠点であった福島県成林寺の久間泰弘師よりお話をいただきます。また、当会からこれまで延べ256人の会員が東北現地支援に参りましたことを振り返り、当会の東日本大震災への支援活動の紹介も計画しています。このような複数のプログラムを通し、



タイ現地視察

改めて東北の皆様には私たちの想いを届けたいと考えております。そして、こうした大事業の中で自分の所属する青年会の成してきたことに触れることは、当会会員にとっても大切なことです。世代が移り変わっても想いを一丸とすることができるよう、これからも真摯に取り組んでまいりたいと思います。

取材／広報委員長 菅悠生



全曹青公式
YouTube
チャンネル

全日本仏教青年会
全国曹洞宗青年会
世界仏教徒青年連盟

東日本大震災から11年
慰霊追悼・復興祈願

オンライン法要



福島県伊達市成林寺よりLIVE配信

亡くなられた方々に...そしてこれからの復興を願い祈りたいと思います。

右から山田会長 谷直前理事長 村山 WFBY 会長

令和4年3月10日、福島県・成林寺の納経塔前で、全曹青・全日本仏教青年会（以下、全日仏青）・世界仏教徒青年連盟（以下、WFBY）共催の東日本大震災慰霊復興祈願法要を厳修いたしました。

今年こそはと現地開催を計画しておりましたが、新型コロナウイルスの感染状況を鑑みオンライン開催となりました。この法要は『全曹青公式YouTubeチャンネル』でライブ配信され、同時に約100人の視聴者がありました。また画面上では、募集した震災への想いを込めたメッセージを配信しました。

最初に全曹青会長・山田俊哉が「発災より11年が経ちますが、私達僧侶には一体何ができるのか、それが活動の中、抱えてきた思いです。未だ震災の悲劇、被災者の悲しみと苦しみが続いていないことを忘れずに、寄り添いながら活動を続けてまいります」と挨拶をいたしました。

発災時刻の14時46分には黙祷を捧げ、慰霊と復興へ共に祈りました。

法要の導師は、山田会長、全日仏青直前理事長・谷晃仁師、WFBY会長・村山博雅師が務めました。法要では納経塔への写経用紙奉納も行われました。この写経は慰霊と復興への想いを込めて日本各地から寄せられたものです。

法要後は全日仏青理事長・西郊良貴師と村山師よりご挨拶がありました。西郊師は「参加いただいた皆様に回向や祈りを捧げていただきましたことに厚く御礼申し上げます。来年の13回忌法要に向けて、全曹青はじめ各団体と協力し準備を進めていきたいと存じます」とご挨拶されました。

村山師は「世界仏教徒青年連盟は、納経塔が安置されて以来毎年この場所に参集し、祈りを捧げさせていただいております。私たちにとってこのときは、東北に向ける思いの原点に戻り、改めて誓願を起こす時間となっております。今後も変わらぬ気持ちで応援を続けてまいります」とご挨拶されました。

オンライン法要により離れた場所にながらも、祈り・想いを一つにすることができました。この法要は『全曹青公式YouTubeチャンネル』でご覧いただけます。来年こそ福島に集えることを祈っております。

文／広報副委員長 宮本貴心



オンラインでの随喜



写経用紙奉納の様子

レポート全曲まで

「寺院のための情報発信支援講座」開催報告

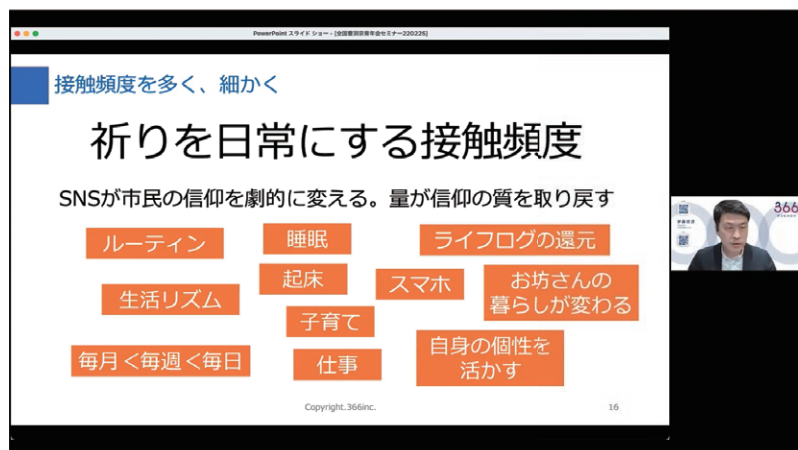


方々をお招きし、3人の活動事例をご紹介します。

講演では主に、①インターネットを使って何をするのか・どういうロジックでインターネットを僧侶が活用するのか（マインドセット）②モチベーションの維持について③具体的な方法論について、順を追ってわかりやすくお話しいただきました。

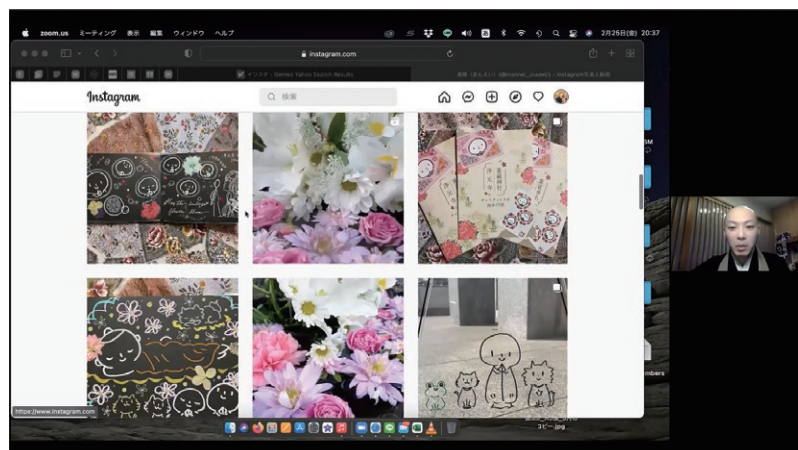
去る令和4年2月25日、「寺院のための情報発信支援講座」をオンライン開催いたしました。講座前半では、講師に「株式会社366」代表取締役CEOの伊藤照男氏を迎え、「インターネットを活用した布教活動」と題してご講演いただきました。後半はSNS等を積極的に活用されている青年僧侶の

講演の中でご紹介いただいた事例で、毎日朝のお勤めをライブ配信しているというご寺院さまがおられました。毎朝20人以上の方が参加されているようですが、ライブ配信で20人という数字は一見少なく感じるかもしれません。しかし毎朝20人の方が本堂に集まっていると考えると、SNSを活用した布教教化の大きな意義を理解することができました。



また続く活動事例紹介では、InstagramやYouTubeなどのSNS活用方法を紹介していただき、具体的な投稿内容や実際にその発信に触れた方の感想、発信が参拝に繋がったお話を聞くことができました。

本講座を通し、インターネットに特に親しい世代である30〜40代の、まさに青年僧侶が仏教界を担っていく時代が来ているということ、そして私たちが考えているよりずっと社会の変化は激しいことがよくわかりました。対面



でのコミュニケーションを疎かにしては本末転倒ですが、僧侶と一般の人が対面以外にも多くの接点を持ち、仏教を特別ではなく日常にすることは本当に大切だと思います。そして特に現在のような社会状況において、SNSは大きな力を持っていることを学ぶことができました。正伝の仏法はそのままに、時代に合わせた情報発信への理解を深め、我々僧侶に今何ができるのかを考えるきっかけとなる講座となりました。

文／教化委員長 菅生泰礼

「仏教って何ですか？」制作レポート

本動画は、全曹青公式 YouTube チャンネルで公開しています。
是非ご覧ください。



全曹青公式
YouTube
チャンネル

今期教化委員会では、社会変化に伴う新たな布教教化の機会を広げる企画として、動画制作を進めております。こちらの企画では、一般向けの布教教化に資すること
はもちろん、青年僧侶にとっても大きな学びとなる動画の制作を進めております。
この度公開した動画では、愛知学院大学学長 引田弘道先生にインタビューし、現
代社会における仏教への期待や役割を伺いました。

企画第1回目の本動画では、広く一般の皆さまに仏教や寺院、僧侶に対しても興
味を持ってもらうことを目指しました。そのため「そもそも仏教とは何か？」など、
仏教の根本的な教えを中心に、一般向けに分かりやすい言葉を念頭にお話を伺いま
した。引田先生は現役教授であり、日頃より未来を担う若者に対面する最前線に立
たれています。教育者としての立場からお話される言葉から、僧侶としての立場
から言葉を選ぶ私達僧侶にとっても新鮮な発見の多い動画となりました。

引田先生は学長というお立場で大変お忙しいにもかかわらず、快くこの企画を引
き受けてくださいました。撮影前の打ち合わせでも気さくにお話くださり、当日
も和やかな雰囲気の中で撮影することができました。また引田先生は宗門内にたく
さんの教え子がいらっしやいます。そのため青年僧侶を応援してくださる気持ちをも
って、熱心にお話してくださったことが強く印象に残っています。また、現役教
授ならではの豊富な知識や経験をもとにしたお話も伺うことができたことは、大変
ありがたいことでした。

社会変化に伴い急成長した昨今の動画 SNS 環境は、気軽に多くの方にご覧いた
だけることが利点です。この動画をきっかけに寺院や僧侶と一般の方との接点が増
え、布教教化の一助となることを期待しております。また大きく変わる社会の中で
悩みながら試行錯誤している私達青年僧侶にとっても、本動画を通して、自分にとつ
ての正しい僧侶の在り方とはなにか。今後どのような活動をすればいいのか。どの
ような研鑽を積みばいいのか。改めて考える一助となれば幸いです。

文／教化委員長 菅生泰礼





秋田県曹洞宗青年会、
映画『典座―TENZO―』上映会開催



学研修
座』を感じた
社会における仏教の役割
講師 山梨県 耕雲院副住職 河口智賢師

秋田県曹洞宗青年会には、「住職学研修」「随聞会」「弁道会」として会員が研鑽を積むための勉強会や、東日本大震災をはじめ昨今頻発する災害へのボランティア活動、大切な方を亡くされた家族や親族へ寄り添うための「祈りのつどい」など多くの活動があります。

今回は3月2日に曹洞宗秋田県宗務所・禅センターを会場に「住職学研修」として全曹青が製作した映画『典座―TENZO―』の上映会と、主演を務め全曹青の教化アドバイザーも務めている山梨県耕雲院副住職・河口智賢師による講義を開催いたしました。

この映画は、山梨県で「精進料理教室」や「いのちの電話相談」など現代に合った仏教を模索する僧侶「智賢」と、福島県沿岸でお寺も檀家もすべてを東日本大震災の津波によって流された僧侶「隆行」が、一人の人間として悩みながら社会の中で仏道を探求するストーリーです。私たち東北の青年僧侶には

震災以降何度も現地へボランティアとして赴いた者も多く、この研修に参加した30人が皆、真剣なまなざしで映画を鑑賞し、それぞれが胸にこみ上げてくるものがあったのではないかと思います。

上映の後は講師の河口師より「映画『典座―TENZO―』を感じた現代社会における仏教の役割」と題して、公開後の世界での展開や撮影秘話の他、ご自坊や地域での様々な活動などを交えた講演を拝聴いたしました。その中でも「Think globally Act Locally 世界規模で考え、足元から行動せよ」の言葉が印象的でした。映画でも仏教を礎に広い視野で考え、そして山梨と福島それぞれの地域に合った形で仏道の実践が描かれています。このことは現実でも同じであると再確認することができました。

この映画を通して、僧侶として生きることの大変さや有難さ、何よりも自分が僧侶であることの芯となる部分を再確認することができ、多くの「気づき」を得ることのできた研修会となりました。

文／国際委員長 高柳龍哉

(秋田県曹洞宗青年会会員)



全日仏青 NEWS



JYBA
ALL JAPAN
YOUNG BUDDHIST
ASSOCIATION

「WFBY 50周年を迎えて」



日本開催・第20回WFBY世界仏教徒青年会議

今年、世界仏教徒青年連盟 (the World Fellowship of Buddhist Youth: WFBY) は設立50周年の年を迎えました。この半世紀という記念すべき大きな節目に際し、改めてWFBYの歴史について振り返ってみたいと思います。

WFBYはご存じの通り、本会・全曹青が加盟する全日本仏教青年会 (JYBA)

が日本セクターを務める世界最大の仏教青年ネットワークです。(公財)全日本仏教会 (JBF) が日本セクターを務める世界仏教徒連盟 (the World Fellowship of Buddhists: WFB) の青年部となります。

WFBは、1950年、スリランカを代表する有名な仏教学者で外交官、マラーセーケーラ博士 (Dr. G.P. Malasekera) により提唱された「仏教徒による国際ネットワークの必要性」をきっかけとして、各国を代表する仏教会が集まり設立されました。当時、第二次世界大戦終結より5年が経ち、アジア諸国の独立が徐々に成し遂げられている状況にありました。仏教徒同士の自由で国際的なネットワークが、世界平和の実現に深く寄与できるはずであるという思いが、WFB成立の原動力になったと考えます。

このWFBには日本も積極的に参加し、連盟の設立を大きく支えました。第2回目の世界仏教徒会議が、スリランカに引き続き日本で開催されたのは、日本が世界仏教界において重要な役割を担っていたことの証明と言えます。

それから19年後、マレーシアで開かれた第9回世界仏教徒会議にて、次世代を担う青年仏教徒育成の観点からWFBY設立構想が提案され、次回仏教徒会議での青年会議の開催が承認されました。これはすでにWFBにおいて青少年の分野に関する活動が大きく拡大していたことに起因した動きでした。そして満を持して1972年、スリランカ開催第10回世界仏教徒会議にて、各国を代表する仏教青年会参加のもと、第1回世界仏教徒青年会議が開催され、正式にWFBYが設立されたのです。

WFBYは、これまでの50年間、世界中の青少年仏教徒の団結・連帯・ネットワークの促進を目的に活動してきました。そして、その仏教の理念に基づく団結はさらなる思いやりと助け合いの心を育み、徐々に世界仏教徒共同体 (the World Buddhist Community) を構築してきました。今もその思いがこのコロナ禍であるからこそその深い関係性を作り上げています。

WFBYはこの50周年を、コロナ禍という厳しい状況と経験の中から生まれた多くの思いとともに、さらに100周年に向けたこれからの50年を見いだす1年と位置づけ、様々な事業を展開してまいります。仏教の宣揚とともに、人々の幸せと世界の平和を切に祈り、時宜に合った活動に邁進する所存です。

文/WFBY会長 村山博雅

WFBYはこの50周年
の歩みを動画で紹介
しています。



第9回WFB青少年常設委員会 (マレーシア)



第1回WFBY世界仏教徒青年会議 (スリランカ)



第10回WFB世界仏教徒会議 (スリランカ)

プロフィール 村山 博雅
むらやま ひろが

昭和46年4月大阪生まれ

慶應義塾大学環境情報学部

環境情報学科卒

愛知学院大学大学院文学研究科宗教学

仏教学博士課程前期修了

大本山永平寺安居

大阪府島本町 洞雲寺住職

大阪府豊中市 東光院副住職

曹洞宗国際布教審議会委員

曹洞宗近畿管区教化センター布教師

世界仏教徒青年連盟 (WFBY) 会長

世界仏教徒連盟 (WFB)

青少年委員会委員長

全日本仏教青年会 (JYBA) 顧問

全国曹洞宗青年会顧問

(公財) 全日本仏教会 (JBF)

WFB日本セクター運営委員会委員



総合企画委員会からのごあいさつ

委員長

三吉 泰之

山形曹洞宗青年会

全曹青に参加させていただき「縁」や「人とのつながり」に驚き、感謝しております。全曹青での出会いや、たくさんの経験を通して、色々な考え方や見方というものを吸収し自分自身成長していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

副委員長

前島 勇哉

曹洞宗静岡県第一宗務所青年会

今だからできること、歴史や伝統を大切に時代に応じた柔軟な形を考えながら活動を支えてまいりたいと思います。

委員

内田 裕大

三重県曹洞宗青年会

全曹青3期目、初めて委員会で参加させていただきました。新型コロナウイルスの影響で管区大会なども中止となり未だブースは出せておりませんが新たな頒布物を考えたり、様々な企画ができるよう2年間務めますのでよろしくお願いいたします。

委員

佐藤 大起

宮崎県曹洞宗青年会

総合企画委員会に配属され、コロナ禍に始まった第24期も1年が過ぎました。様々な制限がある中ですが、全国と地方をつなぐという役割を思い出し、人と人との縁が離れてしまうことの無いよう、様々なイベント等を企画し、盛り上げていきたい所存です。

委員

新川 泰玄

曹洞宗北海道第三宗務所青年会

新型コロナウイルス感染症は未だ終息の兆候が見られず、委員会内でもオンライン会議でしか顔を合わせることができませんが、皆様により良い頒布物を手にとっていただけるよう日々精進してまいります。

委員

諏訪 弘史

いずも曹洞宗青年会

同じ僧侶でありながら、様々なスキルや考え方、つながりを持っている方がいること、さらに各加盟曹青の独自の取り組みを知り、多くの刺激を受けております。未だオンラインでのやり取りしかできておりませんが、このご縁に感謝し、自分にできることを精一杯努めてまいります。

全国曹洞宗青年会の活動は皆さまの賛助費に支えられております。
この度もご協力いただき誠に有難うございました。

◆新潟県4

6 大榮寺 様
23 観音寺 様
36 吉祥寺 様
238 光浄寺 様
265 東林寺 様
817 日照寺 様

◆福島県

58 西泉寺 様
79 西松寺 様
118 小原寺 様
119 長泉寺 様
131 天性寺 様
162 昌建寺 様
226 常隆寺 様
295 高萩院 様

◆宮城県

1 昌傳庵 様
9 瑞雲寺 様
113 繁昌院 様
114 東禪寺 様
212 祥雲寺 様
252 福嚴寺 様
324 光嚴寺 様

◆岩手県

13 長善寺 様
17 清水寺 様
55 長壽寺 様
81 円城寺 様
111 西泉寺 様
133 大林寺 様
145 見性寺 様
186 大光寺 様
245 常楽寺 様

◆青森県

98 東光寺 様
100 澄月寺 様
105 東昌寺 様
183 大乘寺 様

◆山形県1

208 普門寺 様
238 西来院 様

◆山形県2

344 藏高院 様
345 光岳寺 様

◆山形県3

468 宗傳寺 様
641 宝泉寺 様
652 青陽院 様
737 長秀寺 様

◆秋田県

17 補陀寺 様
70 玉龍寺 様
76 藏堅寺 様
179 長泉寺 様
252 長泉寺 様
258 鳳来院 様
265 倫勝寺 様
279 宝昌寺 様
321 鏡得寺 様
323 恩徳寺 様

◆北海道1

78 正林寺 様
96 観音寺 様

◆北海道2

131 法光寺 様
241 孝徳寺 様
248 總泉寺 様
一心会 様
(株)シオウラ 様

インターネット
受付分

◆群馬県

永津 貴大 様

◆山梨県

57 宗禪寺 様

◆静岡県3

676 弧雲寺 様

◆岡山県

29 大通寺 様

ボ ラ ン テ ィ ア 基 金 感 謝 録

2022年1月1日～2022年3月31日取扱い分

◆東京都

179 大林院 様

◆茨城県

13 龍泉院 様

◆山口県

山口県曹洞宗青年会

◆北海道3

禅真会 様

◆埼玉県2

368 東昌寺 様

◆岐阜県

曹洞宗岐阜県青年会

◆宮城県

141 自照院 様



賛助費納御芳名簿

2022年1月1日～2022年3月31日取扱い分

◆東京都

18 大泉寺 様
179 大林院 様
199 大松寺 様
309 天寧寺 様
317 龍雲寺 様
327 新福寺 様

◆神奈川県1

323 高長寺 様

◆神奈川県2

383 観音寺 様

◆埼玉県2

248 長泉寺 様

◆群馬県

43 高常寺 様
99 龍傳寺 様
194 善宗寺 様
311 泉通寺 様

◆栃木県

51 豊栖院 様
57 満福寺 様
69 慶翁寺 様
175 本光寺 様

◆茨城県

2 天徳寺 様
76 雲集寺 様
134 大統寺 様
182 龍心寺 様
197 長龍寺 様

◆千葉県

2 宗胤寺 様
7 満蔵寺 様
22 廣壽寺 様
24 仁守寺 様
272 永泉寺 様
357 永福寺 様

◆山梨県

162 法久寺 様
507 満福寺 様

◆静岡県1

7 元長寺 様
26 宝珠院 様
109 玉泉寺 様
124 宗徳院 様
127 楞嚴院 様
464 正泉寺 様
551 成道寺 様

◆静岡県2

229 法華寺 様
325 海蔵寺 様
332 龍雲寺 様
346 東大寺 様

◆静岡県3

582 圓成寺 様
607 石雲院 様
791 春林院 様
832 善勝寺 様
927 正眼院 様
河合 智矢 様

◆静岡県4

1065 高林寺 様
1140 竹林寺 様
1179 慶雲寺 様

◆愛知県1

7 全香寺 様
55 長全寺 様
101 成福寺 様
108 香積院 様
135 光明寺 様
139 祇園寺 様
313 長松寺 様
605 天徳寺 様
606 向陽寺 様
635 永澤寺 様
1191 智光院 様
1229 玉林寺 様

◆愛知県3

431 報恩寺 様
498 神後院 様
1106 寶鏡寺 様

◆岐阜県

5 悟春院 様
153 宗久寺 様

◆三重県1

37 四天王寺 様
83 涼泉寺 様
246 寶泉院 様
276 地藏院 様
316 劔光寺 様

◆三重県2

371 光明寺 様
408 東正寺 様

◆滋賀県

22 安昌寺 様
143 永寿院 様
197 寶光寺 様

◆京都府

46 榮春寺 様
161 禪福寺 様
236 善光寺 様
367 福昌寺 様
389 萬福寺 様

◆大阪府

31 正泉寺 様
69 永興寺 様

◆兵庫県1

14 禪昌寺 様
287 向榮寺 様
341 常嚴寺 様

◆兵庫県2

103 東林寺 様
221 永源寺 様

◆広島県

46 雙照院 様
93 賢忠寺 様
133 少林寺 様

◆山口県

4 寶蔵寺 様
25 弘濟寺 様
63 月輪寺 様
72 真福寺 様
86 興元寺 様
172 廣福寺 様
190 亨徳寺 様

◆鳥取県

146 妙楽寺 様

◆島根県1

231 岩瀧寺 様

◆島根県2

70 完全寺 様
157 慶用寺 様
187 養善寺 様
195 總光寺 様

◆愛媛県

146 興雲寺 様
161 善福寺 様

◆福岡県

5 妙徳寺 様
25 南林寺 様
28 桂木寺 様
170 廣嚴寺 様

◆長崎県1

42 西方寺 様

◆佐賀県

32 泊舟院 様
194 普恩寺 様

◆熊本県2

76 高雲寺 様
78 地藏院 様
122 國照寺 様

◆宮崎県

6 祐國寺 様

◆鹿児島県

2 龍光寺 様

◆長野県1

57 長秀院 様
65 柳原寺 様
243 廣徳寺 様
322 守芳院 様
338 長谷寺 様

◆長野県2

491 龍勝寺 様
512 浄蓮寺 様
566 広明寺 様

◆福井県

9 永昌寺 様

◆石川県

35 東光院 様

◆新潟県1

350 定光寺 様
358 円光寺 様
393 曹源寺 様
394 常安寺 様
496 長樂寺 様

◆新潟県3

519 少林寺 様
558 周広院 様

全曹青からのお知らせ

公式ホームページ『般若』 ダウンロードイラスト追加

この度、全曹青公式ホームページ『般若』でダウンロードいただけるイラスト素材に、仏教や曹洞宗において親しみ深い蓮や梅などの植物を描いた点描画を追加いたしました。各作品は、愛知県楞嚴寺副住職・渡部皓宗師に描いていただきました。

点描画は近くで見れば点になり、離れて見ると線になる。まさに師から弟子への仏法の相承が、脈々と受け継がれる様を意識した作品です。特に蓮の絵では、草木の命が生み出すなにもものにもかえることの出来ない美しさを表現していただきました。

各イラスト素材は、全て無料で使用いただけます。是非ご活用ください。



HP『般若』より
ダウンロード



「禅僧といっぽく」YouTube 動画公開

全曹青の各公式SNSで連載中の「禅僧といっぽく」について、これまでの投稿を基に動画を作成し、この度『全曹青公式 YouTube チャンネル』で公開いたしました。

本連載は和菓子につけられる銘と禅語に注目し、禅の世界観をどなたにも身近に感じていただくことを目標とした企画です。今回の動画では新たに茶の湯の所作や自然を身近に感じる映像を追加いたしました。動画コンテンツならではの利点を活かして、写真では伝えきれなかった禅と茶の湯の持つ世界観や親和性をより深く感じていただける内容となっております。また英文での解説を追加し、禅と茶の湯の魅力を国内外に広く発信する動画となりました。

是非『全曹青公式 YouTube チャンネル』よりご覧ください。



全曹青公式
YouTube
チャンネル

表紙の話

今号特集は自然と禅をテーマとし、近代における僧侶と自然の共存を考えました。特集を意識し、表紙では人間の文明と自然の対比を表現いたしました。

※撮影は、見学および撮影が許可されている場所で行いました。

撮影地 / 鳥取県 旧国鉄倉吉線廃線跡 撮影 / 広報委員長 菅悠生